

ブラウザーを活用しよう(7)

楽譜と連動(クリックした小節が鳴る)

1 頁に 1 曲として設計し、そこに楽譜があれば当然その楽譜と連動したクリッカブルマップを連想することでしょう。

やり方は先月号のタグを基本としていますが、画面上の楽譜がブラウザーの画面の大きさに変わったりすることのないようページ全体で 1 曲表示の画面になるようにしなければなりませんから、長い曲には向きません。しかも小節の数だけマップを用意するだけでなく、それぞれの小節だけの演奏データを作らなければなりませんので手間が大変です。

そうして出来上がったとしても連続して演奏させる時クリックのタイミングには至難のテクニックが必要になることでしょう。

このような細切れのパーツを集めるような場合は思い切って MIDI ファイルや MIDI 音源で演奏させることを諦めた方が良いでしょう。

MIDI の代わりに WAV ファイルを利用するわけですが、一番簡単な WAV ファイルの作り方は次の通りです。

スタート プログラム エンターテイメント サウンドレコーダー でソフトを起動。

入力接続プラグを PC 本体のマイク接続口につなぐ。

(LINE の場合、レベルに注意してオーバーレベルにならないようにしましょう。デジタル録音でオーバーレベルになると音が消えてしまうことがあります)

サウンドレコーダーの右下の録音ボタン(赤い印)をクリックすれば録音がスタート。

止める場合は停止ボタン(印)をクリック。

録音が終わったら、ファイルに名前を付けて保存する。

WAV 形式での保存となり、``

マップ領域とセットにする。

ただし、このサウンドレコーダーは録音できる時間は、1 分間だけです。長時間録音したい場合は、専用ソフトが必要となります。お勧めは、【ベクター】で、URL は <http://www.vector.co.jp/> です。

Mac の場合は WAV ではなく AIFF (CD と同じ形式) になりますのでこの方法は使えませんが、Mac 付属の Simple Sound で同じようにファイルをつくります。後は同じです。

この方法は専用のアプリケーションが立ち上がってしまう場合がありますのでかえってやっかいなことになる可

性が高いので、プラグインを使える形式がおすすめです。



`<p>`

``

`<AREA SHAPE="rect" COORDS="a1,b1,c1,d1" HREF=" ">` 1 小節目の座標に該当。はファイルのある場所とその名前。図ではグレーになっている所 (a1,b1,c1,d1)。

マップ(小節)の数だけ上の行を繰り返す。.....

`</p></MAP>`

実際にやってみるとすぐ気が付くと思いますが、前の演奏が終わらない内に次の小節をクリックすると前の演奏は続行されたまま、次の音がかぶってきます。この他にクリックしても直ぐに音が出ないタイムラグの問題もあり、それほど実用性はないと思われます。

楽譜と連動(演奏中の小節が示される)

これは <http://xml.musicalplan.com/> のホームページからダウンロードできる MusicX というソフトを使えば簡単にできます。(残念ながら Windows のみ)

MusicXML 形式による XML 楽譜ファイルは、XML アダプタを用いて作成します。XML アダプタは MUSIC PRO for Windows V4 シリーズ以上に組み込んで使用します。

MusicXML ファイルの作成方法

1. 楽譜を作成する

MUSIC PRO for Windows V4 シリーズで楽譜を作成します。または既存の楽譜ファイルを開きます。

2. XML 楽譜ファイルに保存

MUSIC PRO for Windows V4 シリーズの [ツール] メニューの [XML アダプタ] - [XML への保存] を選択し、ファイル名をつけて保存します。